

差別さべつのない世界へ

小 三

思いました。

わたしは、電車に乗っているときや、外を歩いているとき、ときどきヘルプカードをつけている人を見かけます。ヘルプカードとは、しょうがいのある人や外見では分からない助けがひつような人がつけているカードです。わたしは今まで、そのカードをつけた人を見かけたとき遠とほざかりたい気持ちになつていました。その人のことを、いやだなど思ってしまう自分がいました。でも、ある日カードをつけている人の手助けをしている人を見かけました。とてもびっくりしました。すごいなと思いました。

なぜなら、自分から進んで声をかけるのはとてもゆう気があると思うからです。そして、わたしは、前にいやだと思ってしまうことをふり返ってみました。道とくの間など、人をいじめてはいけないと言われて、いじめはよくないと分かっているつもりでも、カードを見ただけでいやだと思うのは、心の中で差別さべつしてしまう気持ちがあるからだと思いました。もしわたしが、カードをつけていただけで、いやな目で見られたらとてもきずつきます。だから、これからは、差別の心ではなくて、考える心もちたいです。そうしたら、もっと差別のない世界になると思います。